三番割(さんばんわり)古墳群　現地説明会資料

令和 6(2024)年　２月 10 日(土)
明石市文化・スポーツ室　文化振興担当

調査地は、明石市大久保町松陰新田に所在し、宗賢(そうけん)神社の南西約４00m、南東から北西に延びる丘陵の南西に広がる裾部の平坦地、標高約 27.3mの段丘上に立地しており、調査対象面積は約 1029 ㎡です。2023(令和 5)年 12 月 7 日から、江井島松陰新田線道路新設工事に伴う発掘調査を行ったところ、調査区の東部を南北に流れる谷筋の西側段丘突端部分において、5 世紀後半に相当する２基の古墳の周溝が発見されました。

２基とも上部は後世に削平され、墳丘や埋葬部などは失われており、周溝下層部のみとなっていました。その形状からいずれも円墳であることが分かり、復元した墳丘の直径は約 14m、溝の外周まで含めた直径は約 17m だったと推定されます。

●1 号墳(北側)

周溝は、幅約 2m、深さ約７㎝が残存しており、埋土からは土師器(はじき)や円筒埴輪(えんとうはにわ)の破片などが出土しました。埴輪片は残りが少なく、正確な形を復元することはできませんが、口縁部や底部から、円筒埴輪が大部分だったと考えられます。

●2 号墳(南側)

周溝は、幅約 3m、深さ約 15 ㎝が残存しており、埋土からは須恵器 𤭯(はそう)と円筒・朝顔形埴輪の破片が出土しました。𤭯は胴部径約 11 ㎝、高さ約 10 ㎝を測り、頸部に櫛描波状文(くしがきはじょうもん)がみられます。

円筒埴輪片は口縁部、胴部、基底部端の部位がそれぞれ確認されています。ほとんどが土師(はじ)質ですが、須恵(すえ)質のものも数点確認されました。埴輪口縁部から下の突帯(とったい)までの長さは約９㎝、底部から第 1 段突帯までの長さは約 14 ㎝を測ります。外面にはタテ・ヨコ両方向のハケメ調整が観察されました。

朝顔形埴輪片は頸部(けいぶ)の下部分が確認されています。

各埴輪の全容は未だ不明ですが、今後の接合作業によっては、全体像が復元できる可能性があります。

いずれの古墳も、周溝内側の肩付近に埴輪片が集中しており、当時の墳丘には円筒・朝顔形の 2 種類の埴輪が並べられ、それらが溝内に倒れ込んだものが残されていたと考えられます。

今回の古墳の発見で、この時期の当地に有力な豪族が存在していたことが明らかとなりました。

当地より南東の段丘上には、出合古墳群(5 世紀後半～6 世紀前半)が位置しています。また、北東の丘陵の尾根上にも、調査はされていませんが古墳があるとされています(松陰新田古墳群１～３号墳)。今回発見された 2 基の古墳との距離はいずれも約４００ｍであり、当古墳がいずれかの古墳群に属するものであるとは考えにくく、当地において独立した古墳群であるとみられます。その一方で、墳丘の形状や規模は出合古墳群のものと類似しているため、これらの古墳群との関連性については、出土遺物の比較等を通して探っていくことが今後の課題と考えます。

明石市内での古墳としては、4 世紀後半の幣塚(ぬさづか)古墳や、6 世紀前半のカゲユ池古墳、寺山古墳など、これまで 10 例ほどしかその所在は知られていませんでした。その中で、今回検出された 2 基の円墳は、これまではその存在が知られていなかった時期の古墳であり、周辺の古墳群と併せて、この地域における当時の豪族層の動向を明らかにする上で、重要な発見となりました。

また、同調査区の西側では、2023 年 3 月から 5 月にかけて、同じく道路新設工事に伴って調査を行っており、13～14 世紀に相当する溝や土坑が検出され、須恵器甕、捏鉢(こねばち)、土師器羽釜(はがま)などが出土しています。中世においても、人の活動があった事が確認されています。

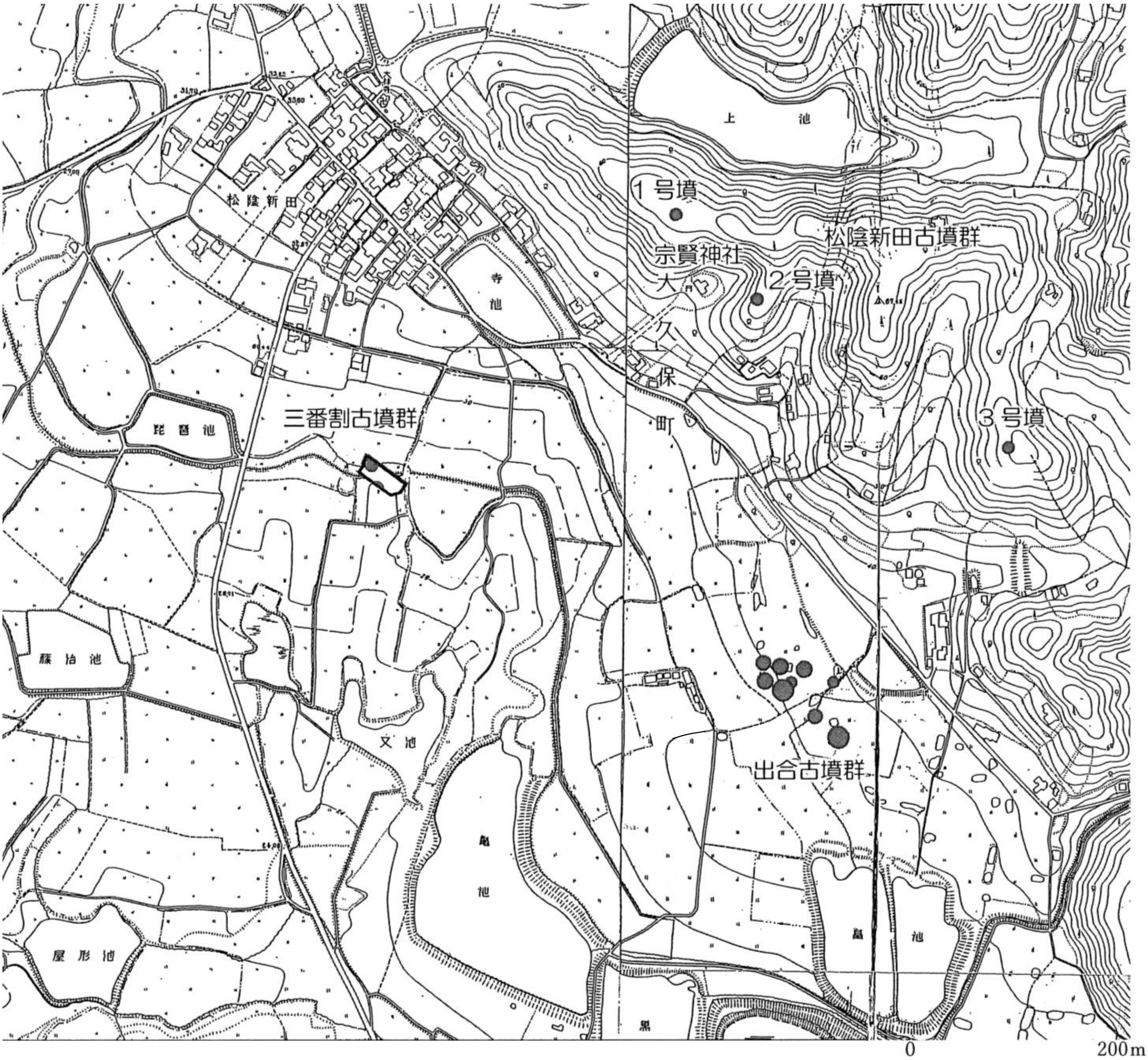
●用語解説

・古墳時代…一般的には 3 世紀中頃から 7 世紀末までを指し、各地の権力者のための、土を盛った墓である古墳を造営していた時代です。前・中・後期に大別され、日本国内には、約 16 万基があります。

・墳丘の形状…前方後円墳や円墳、方墳など、様々な形状があります。単純な大きさだけでなく、その形状によっても被葬者の身分を表しているといわれています。

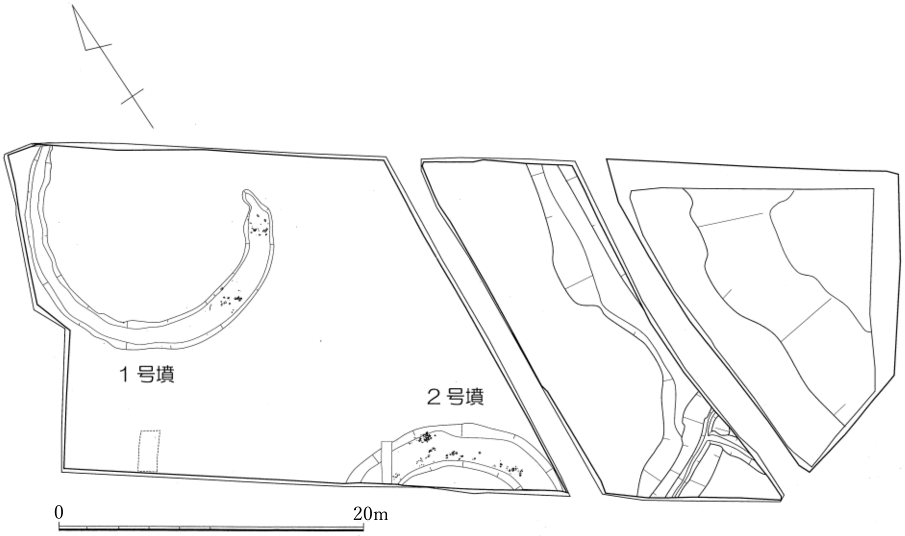
・埴輪…大きく分けて、円筒埴輪と人や物を模した形象埴輪に大別されます。今回出土した円筒埴輪と朝顔形埴輪は、古墳の周囲を取り囲むように配置し、古墳を守る役割をもっていたと考えられます。

・須恵器𤭯(はそう)…口縁部がラッパ状に大きく開き、胴部に穴が開けられている壺型の器種で、現在の「銚子(ちょうし)」などと同じように、水や酒などを注ぐために用いられた須恵器です。使用の際には、胴部の穴に竹筒などを挿し込み、注ぎ口にしていたと考えられます。

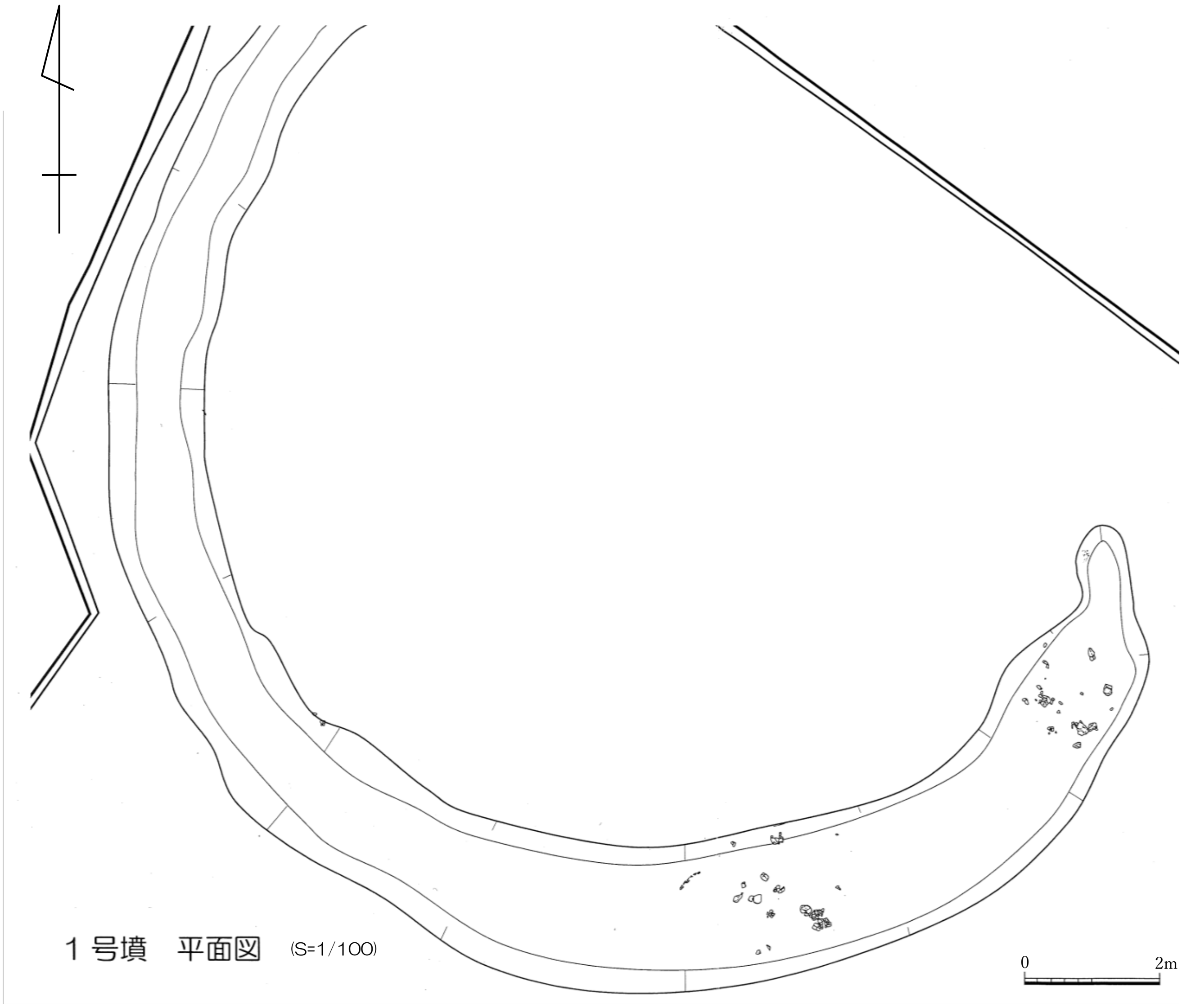


松陰新田遺跡　第２地点　(三番割古墳群　1･2 号墳)　周辺図　(S=1/6000)

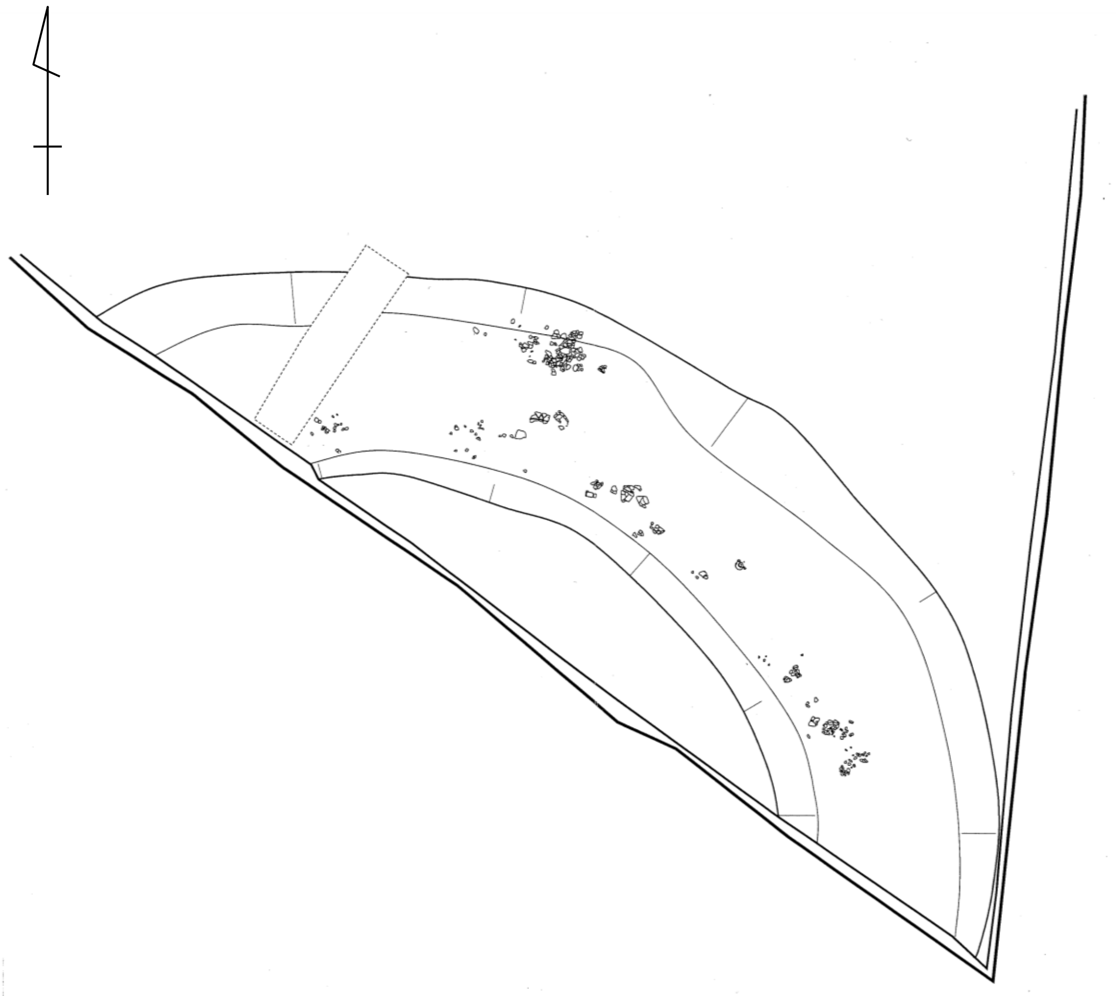
三番割古墳群　周辺遠景　西から



松陰新田遺跡　第２地点　三番割古墳群　１・２号墳　　平面図（S=1/500）



1号墳　平面図　(S=1/100)



２号墳　平面図　(S=1/100)

2 世紀中頃	この頃、藤江別所で井戸がつくられる	倭国乱
239		女王卑弥呼、魏に使いを送り金印と銅鏡 100 枚を与えられる
3 世紀中頃		前方後円墳の築造が始まる
4 世紀前半	白水瓢塚（しらみずひさごづか）古墳がつくられる	
4 世紀後半	五色塚古墳・幣塚（ぬさづか）古墳がつくられる	
5 世紀前半	藤江別所で車輪石・銅鏡を使った井泉祭祀が行われる	
5 世紀中頃	吉田王塚古墳がつくられる 出合古墳群がつくられる	
5 世紀後半	三番割古墳群がつくられる	
421 ～ 502		倭の五王、中国の南朝に使いを送る
507		継体天皇即位
527		筑紫国造磐井の乱起こる
6 世紀前半	赤根川沿いで窯を築き角杯などの須恵器を焼く カゲユ池古墳群がつくられる 寺山古墳がつくられる	
6 世紀中頃		
6 世紀後半	狩口台きつね塚古墳がつくられる	

明石市域の古墳

⑴　現存するもの

幣塚(ぬさづか)古墳　(魚住町清水)　――――――――――古墳時代前期(3～4 世紀後半)

カゲユ池古墳群　１号墳　(藤江)　――――――――古墳時代後期(6 世紀前半)

松陰新田古墳群　１・２・３号墳　(大久保町松陰新田)　―　　〃

あさぎり寮古墳　(明石公園)　――――――――――　　〃

⑵　発掘調査後、破壊され消滅したもの

カゲユ池古墳群　２・３・４・５・６号墳　(藤江)　――　　〃

⑶　発掘調査が行われずに破壊され、消滅したもの

中尾新田古墳　(魚住町中尾)　――――――――――　　〃

文五郎塚古墳　(魚住町金ヶ崎)　――――――――――　　〃

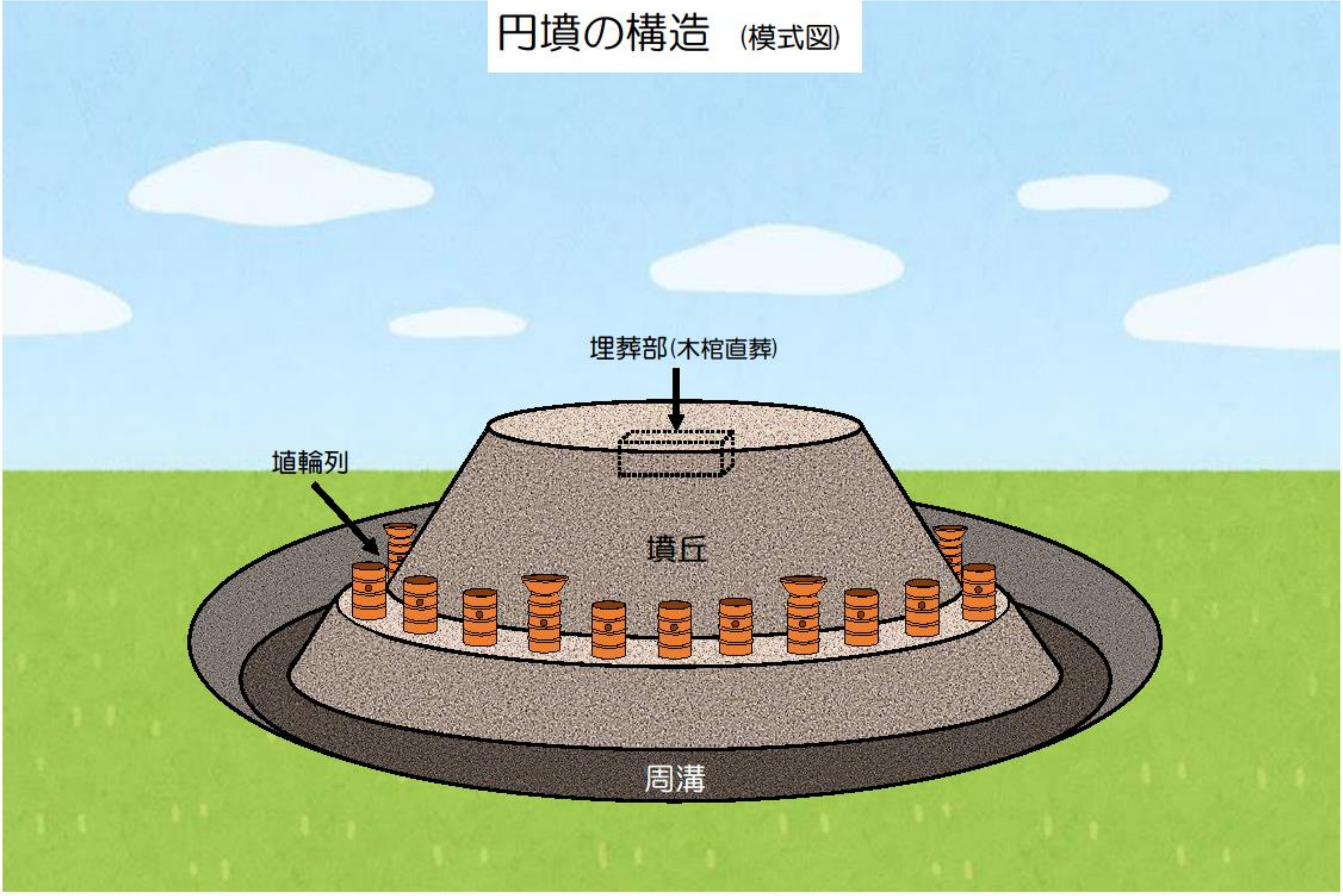
宮の先古墳　(大久保町大久保町)　｝記録のみ

下ヶ谷古墳　(　〃　)

⑷　発掘調査の結果古墳の存在が確認されたもの

藤江中尾古墳　(藤江)　――――――――――――　　〃

東仲ノ町古墳　(東仲ノ町)　――――――――――　　〃

寺山古墳　(魚住町長坂寺)　――――――――――　　〃

★三番割古墳群　１・２号墳　大久保町松陰新田――――古墳時代中期後半（５世紀後半）